TAPINSYSTEMS

Tap In Systems, Inc.のクラウド管理サービス

Reports ユーザガイド

Tap In Systems Reports の使い方

Version 0.3a running on Amazon EC2 Linux

目　次

本資料はＩＴオペレータやマネージャ向けのレポーティングリファレンスおよび、Tap in Systems のクラウド管理サービスによって監視されているＩＴ環境の情報と分析について記述しています。この中には、レポートへのアクセス方法、各レポートの内容および、使用可能なオプションについての記述があります。

他のTap in Systems のガイド：申し込みとTap In Systems CMS の使用開始について記述した *Quick Start Guide* と Tap In Systems のコンソールアプリケーションのための *QuickView User Guide*、そして *System Administrator Guide* が Tap in のＷｅｂサイトから入手できます。

イントロダクション

TAP IN SYSTEMS の REPORTS について

Tap In Web レポートは Tap In 管理サーバによって提供されるサービスの一部です。 インストレーションは不要です。そのレポートは Tap In 管理サーバに割り当てられたホスト名を使ってブラウザからアクセスすることができます。

Tap In レポートでは、 Firefox version 3 か Internet Explorer version 7 ブラウザの使用で JavaScript を有効にする必要があります。 Web レポートは他のブラウザでも機能する可能性もありますが、Firefox か IE の使用を推奨します。

レポートのタイプには、*basic Status* と *Analysis* そして *EC2 Status* と *Analysis* レポートがあります。*Status* タイプのレポートは監視環境のステータスを表示するレポートビューを提供します。View タイプには、*Open Events*、*Components View*、*Group Views* と、クラウドベンダとカスタムコンポーネント固有のアドオンビューが含まれます。

Analysis タイプのレポートは、履歴データから由来した現在の情報を提供します。View タイプには、*Event List*, *Historical Reports* と、クラウドベンダとカスタムコンポーネント固有のアドオンビューが含まれます。

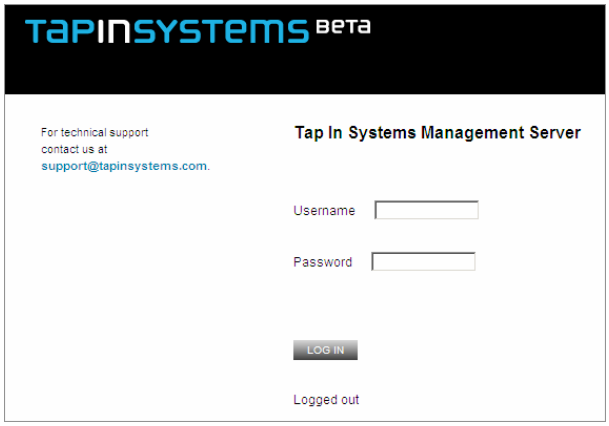
Amazon EC2 やロードバランサーなどのアドオンビューは、モジュールを介して付け足すことのできるビューで、コアセットの一部ではありません。

Tap In Systems は、より多くの、異なる管理テクノロジーが開発されるのにしたがって、レポートを開発します。 Tap In Systems の Web サイトwww.tapinsystems.com の RESOURCES セクションをアクセスし、アップデートを確認してください。

レポートの起動

レポートへのアクセス

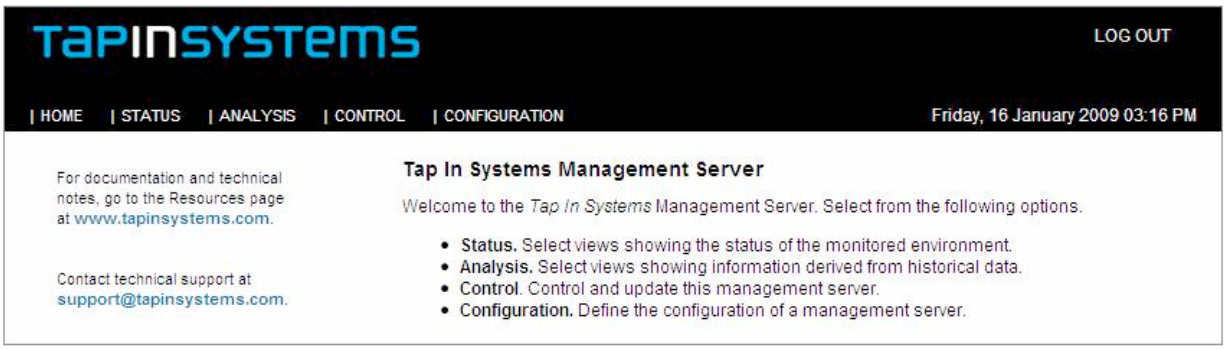
1. ブラウザで URL http://<hostname> を開きます。このhostname は Tap In 管理サーバのホスト名です。これは通常、下記の形式です <name>.tapinsystems.net。これらの情報を得る方法については、*Tap In System Administrator Guide* を参照してください。
2. ログイン画面が表示されます。あなたのユーザ名とパスワードを入れてください。



Tap In 管理サーバのホームページ

管理サーバにログインすると、ホームページが表示されるでしょう。下の図と説明文は、さまざまのメニューオプションとその階層を説明します。 レポートオプション ; *Status* と *Analysis* ビュータイプの各々について、このドキュメントの中で説明します。

図: 管理サーバのホームページ



- STATUS – このオプションは監視環境のステータスを表示するレポートを提供します。ビューのタイプには、*Open Events*、*Components View*、*Group Views* とクラウドベンダ固有のアドオンビューおよびカスタムコンポーネントが含まれます。詳しくはTap In *Reports Guide* を*参照ください*。
- ANALYSIS – このオプションは履歴データから得られる情報を表示するレポートを提供します。ビューのタイプには、*Event List*、*Historical Reports* とクラウドベンダ固有のアドオンビューおよびカスタムコンポーネントが含まれます。詳しくは Tap In *Reports Guide* を*参照ください*。
- CONTROL – Control は、さまざまの管理サーバコマンドを実行する*Management Server Commands* と*Update Management Server Configuration* オプションを提供します。
- CONFIGURATION – この主要オプションは。サーバプロパティ、コンフィギュレーションインスタンスの管理、ホストの管理、タスクの管理、コマンドの管理、通知、ユーザの管理およびユーザーフィルタ管理などの、管理サーバのシステム構成設定を行えるようにします。

ログアウト

すべてのページの右上端に表示されている LOG OUT リンクを選択することで、いつでも管理サーバをログアウトすることができます。

セクション I

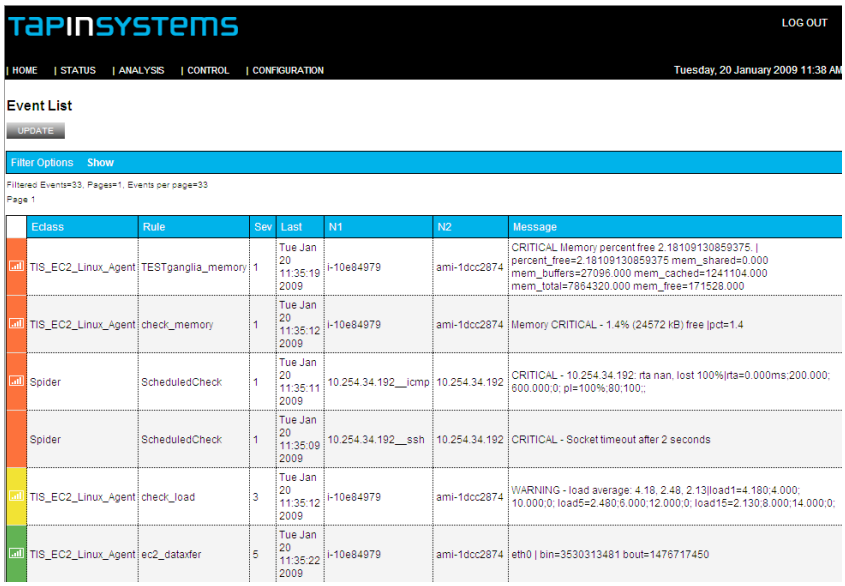
このセクションの中では、基本の Status（ステータス） と Analysis（分析） レポートを説明します。ステータスレポートには *Open Events*、*Components View* と *Group Views* があり、分析レポートには *Event List* と *Historical Reports*があります。 Amazon EC2 などのクラウドベンダ固有のアドオンビューおよび、ロードバランサーなどのカスタムコンポーネントはモジュールを介して追加されるビューであり、レポートのコアセットの一部ではありません。これらのレポートについてはセクション II で説明します。

ステータスレポートの作成

STATUS オプションは管理対象テクノロジーの現在状態のためのビューを提供します。各ステータスレポートは Tap In 管理サーバ内のイベントのための種々のビューを提供します。

オープン中イベント

このレポートは、オープン中のイベントを一覧表示し、Tap In の QuickView コンソールアプリケーションのビューと同様です。そのレポートは複数ページでの表示ができ、表の最上部にあるページ番号のリンクを選択することで特定のページに進むことができます。デフォルトでは、イベントは、重大度（severity）の昇順と時刻の降順で表示されます。



重大度とグラフ

最初のカラムの色は、イベントの重大度（severity）を示します。その色は重大度レベル１から５、つまり **赤 = 1、オレンジ = 2、黄 = 3、 LTグリーン = 4、** と **緑 = 5** 表します。また、同じカラム内にあるグラフィックアイコンは、ひとつ以上のグラフ（のGA/GVフィールド）がそのイベントに関連していることを示します。グラフを見るには、そのグラフアイコンをクリックしてください。

右の図は、Linux の check_load モニターが作成した、イベントの計測値のグラフです。この例のように、グラフ化するべき複数のアトリビュートがある場合、複数のグラフが作成されます。

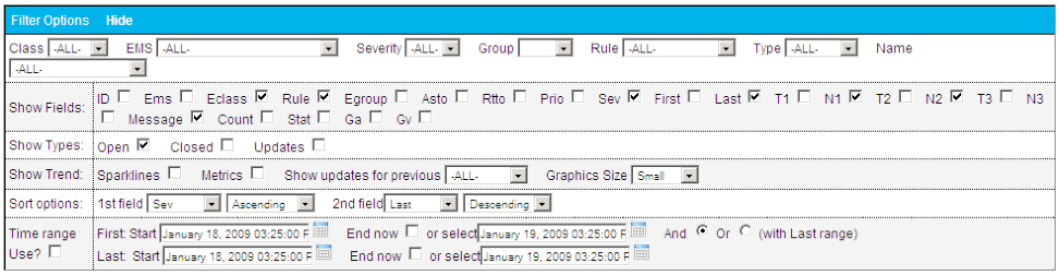
グラフを見ている間、*Rule* と *Attributes* フィルタのオプションを変えることができます。また、*Start* と *End* の日付/時刻を、それぞれの設定の隣にあるカレンダーアイコンの上をクリックすることで変更できます。 *End Now* ボックスを選んだ場合、終了日時のフィールドには現在日時が入り、新しい終了日時を入れたい場合は、このボックスの選択を外します。新しい設定で見たい場合、*UPDATE* を選択してください。グラフの参照画面から、*Event List* に戻るには *All Open Events* リンクをクリックしてください。

フィルターオプション

フィルターオプションは、*Class*、*EMS*、その他のオプションを選択することで、コンポーネントの詳細さのレベルを変更できます。Event List 画面から *Show* オプションを選ぶと、このレポートのフィルタで利用可能なフィールドが表示されます。*Hide* を選ぶと、フィルター表示をクローズします。下図は、

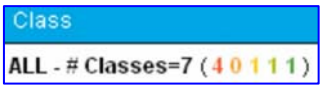
各オプションを示します。レポートフィルターの完全なリストは、このドキュメントの用語集を参照してください。

図: Filter Options – Status Report: Open Events Report



Components View（コンポーネントビュー）

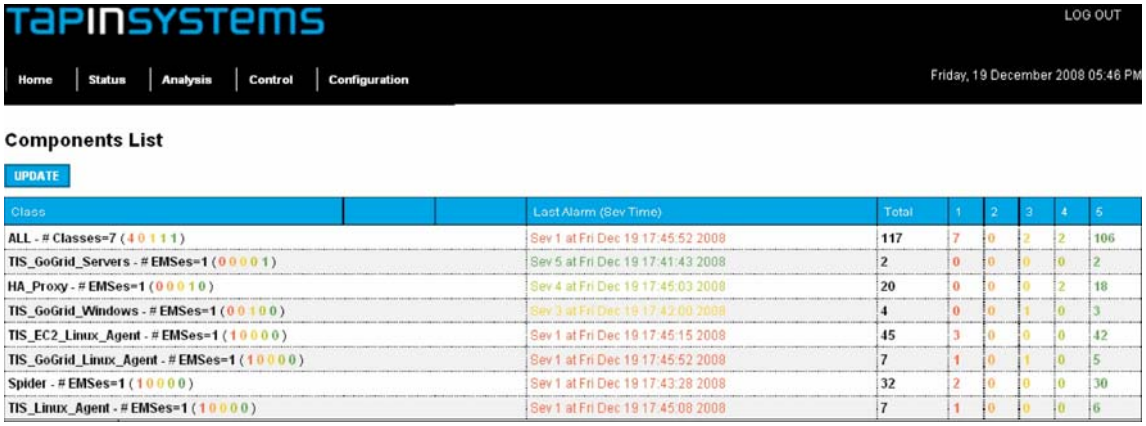
Components View のステータスレポートは、ユニークなクラス、エレメント管理システムおよび階層的なフィールドの組み合わせによって定義される、管理対象ノードに要約されたイベントの概要を提供します。このレポートのデフォルトのカラム表示は、*Class*、*Last Alarm* (Sev Time)、*Total* と *重大度レベルの* (1-5) です。最上部の行に全クラスの結果があり、その下にクラス毎に区分した結果が表示されます。



最上部の行のコンポーネント、この例では*Classes* の隣の数字は、その下のレベルのコンポーネント数を示します。数値の色は下位コンポーネントの最も高いレベルの重大度の総数を示します。たとえば、右図の表示は、**総計７クラス(classes)**で、その内の四つ(４) が少なくともひとつの重大度 **1** のイベントを持ち、 ゼロ (**0**) が最上位の重大度**2** で、 ひとつ(**1**) が最上位の重大度が **3** 、ひとつ (**1**) が最上位の重大度が **4** そして ひとつ (**1**) が最上位の重大度が **5** となります。これらの重大度フィールドはリンクでもあります。重大度のカウント数を選ぶと、その重大度にあるクラスのみが表示されます。全体一覧を表示したい場合は、*All - # Classes* を選んでください。

Class フィールドは管理対象のカテゴリ（例. *All, Spider, TIS_EC2_Linux_Agent*）です。 **Last Alarm** (Sev Time) フィールドは対応するクラスのために処理された最後のイベントを示します。 **Total** のカラムはクラスイベントの数を示し、Severity （重大度）のカラム（**1～5**） はクラス内のイベント総数を示します。 これらの重大度フィールドのすべてはリンクでもあります。重大度のカウント数を選ぶと、対応する重大度とコンポーネントのクライテリアのための *Event List* ページが開きます。

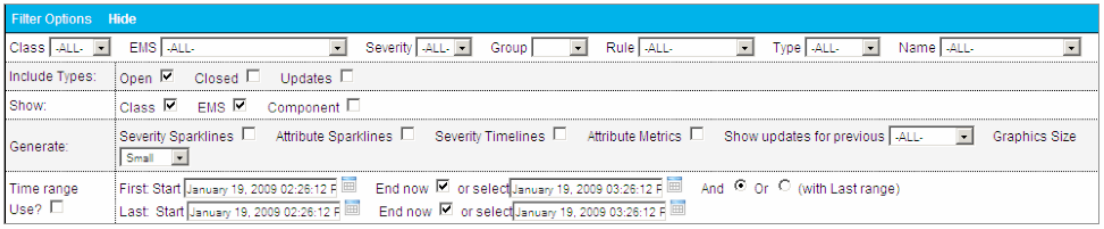
図: Status Report - Components View



フィルターオプション

Class や *EMS* および他のフィルターオプションを選ぶことで、コンポーネント詳細のレベルを変更することができます。たとえば、このレポートでは、フィルターオプションは、デフォルトで表示フィルターオプションを表示（*Show*）するよう設定されています。 *Hide* を選ぶと、フィルタの表示を閉じます。下図は、各フィルタオプションを表示します。 レポートフィルタの詳しい説明は、本ドキュメントの用語集を参照してください。

図: Filter Options – Components View Report



Group Views（グループビュー）

Group Views ステータスレポートは、Group フィールド毎にホストとイベントのカウント数を要約する、*Hosts by Severity* と *Events by Severity* が含まれます。このフィールドは、クラスとコンポーネントの境界を越えることを意図しています。たとえば、特定のアプリケーションに関連するすべてのイベントは同じグループの値を持ちます。

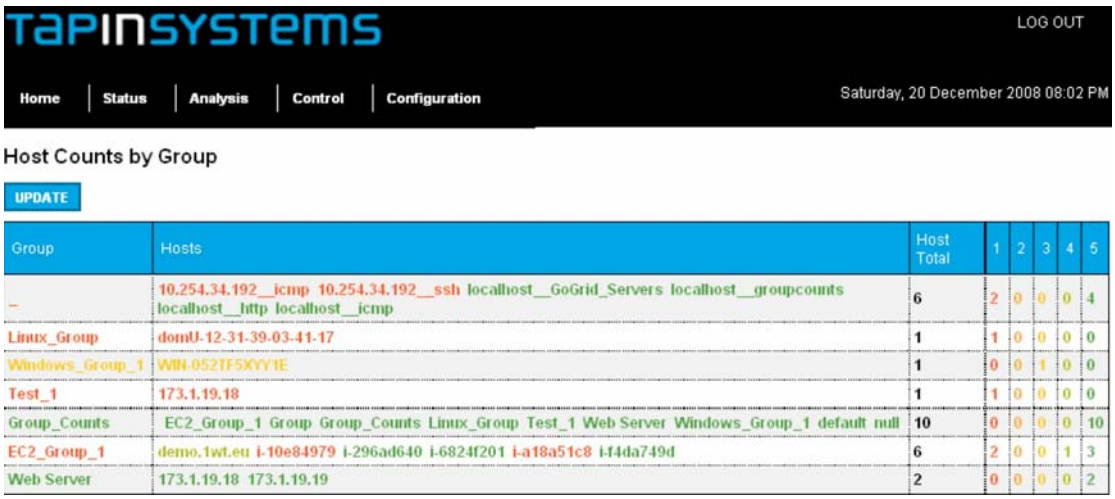
Hosts by Severity

Hosts by Severity（グループ毎のホス数）ビューは、各位グループ毎のホスト（ないし、ユニークな Type 1/Name 1 フィールド）を表示します。

最初のカラム *Group* のグループ名の色は、そのグループに関連付けられたホストのうちの最も高い重大度レベルを示します。 グループ名のリンクを選択すると対応するグラフを表示します。

二番目のカラム *Host* のホスト名の色は、そのホストの最も高い重大度レベルを示します。 ホスト名のリンクを選択するとイベントリストを表示します。 次の *Host Total* カラムは各グループ内のホスト数を表示します。最後五つのカラムはそのグループ内の重大度毎のホスト数を表し、対応するイベントリストへリンクします。

図: Status Reports – Group Views – Host by Severity



Group	Hosts	Host Total	1	2	3	4	5
–	10.254.34.192__icmp 10.254.34.192__ssh localhost__GoGrid_Servers localhost__groupcounts localhost__http localhost__icmp	6	2	0	0	0	4
Linux_Group	domU-12-31-39-03-41-17	1	1	0	0	0	0
Windows_Group_1	WIN-052TF5XYY1E	1	0	0	1	0	0
Test_1	173.1.19.18	1	1	0	0	0	0
Group_Counts	EC2_Group_1 Group Group_Counts Linux_Group Test_1 Web Server Windows_Group_1 default null	10	0	0	0	0	10
EC2_Group_1	demo.1wt.eu i-10e84979 i-296ad640 i-6824f201 i-a18a51c8 i-f4da749d	6	2	0	0	1	3
Web Server	173.1.19.18 173.1.19.19	2	0	0	0	0	2

Events by Severity

Events by Severity（グループ毎のイベントカウント数）ビューは、グループ毎のホスト（ないし、ユニークな Type 1/Name 1 フィールド）を表示します。

最初のカラム *Group* のグループ名の色は、そのグループに関連付けられたホストのうちの最も高い重大度のレベルを示します。 グループ名のリンクを選択すると対応するグラフを表示します。

二番目のカラム *Host* のホスト名の色は、そのホストの最も高い重大度のイベントを示します。 ホスト名を選択するとイベントリストを表示します。次の *Event Total* のカラムは各グループ内のイベント数を表示します。最後五つのカラムはそのグループ内の重大度毎のイベント数を表し、対応するイベントリストへリンクします。

図: Status Reports – Group Views – Host by Severity

フィルターオプション

Class や *EMS* および他のオプションフィルターオプションを選ぶことで、コンポーネント詳細のレベルを変更することができます。たとえば、このレポートでは、フィルターオプションは、デフォルトで表示フィルターオプションを表示（*Show*）するよう設定されています。 *Hide* を選ぶと、フィルタの表示を閉じます。下図は、各フィルタオプションを表示します。 レポートフィルタの詳しい説明は、本ドキュメントの用語集を参照してください。

図: Filter Options – Group Views Reports

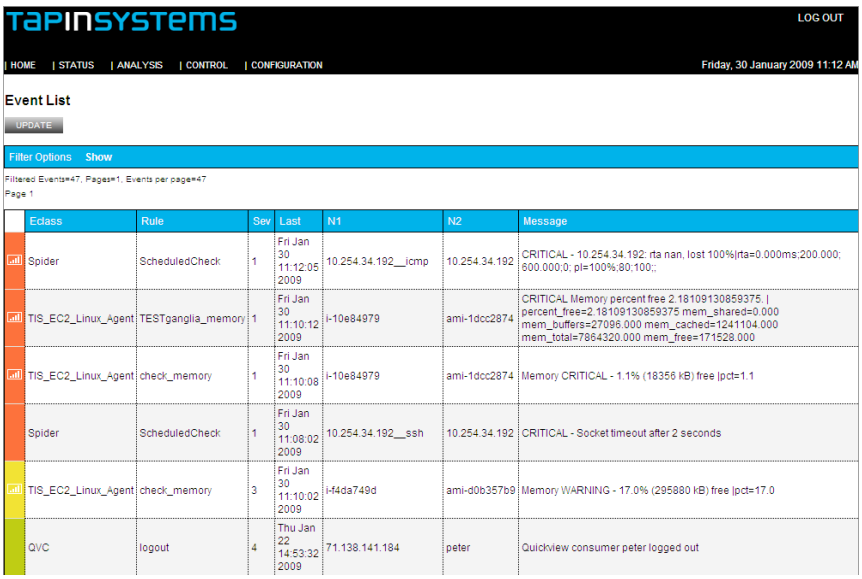
分析レポートの作成

ANALYSIS オプションは、EC2 管理環境の履歴イベントを分析するレポートを表示します。分析レポートは、オープン中のイベントと履歴（クローズ済）イベントの両方を処理します。要約されたクローズ済みイベントは、時間経過の中であなたの管理環境化どのように変化したかのビューを提供します。いくつかの分析レポートは、問題のより高レベルのビューを提供するため、複数のイベントにまたがるパフォーマンス計測値を組み合わせます。

各分析レポートは、Tap In 管理サーバ内のイベントについてのさまざまのビューを提供します。 以降で *Event List* と *Historical Reports* のビューについて説明します。

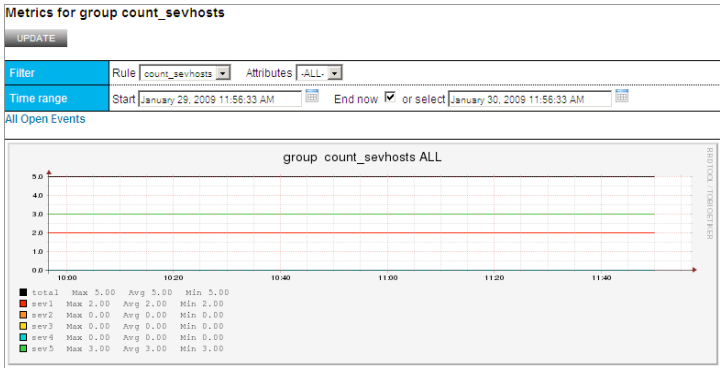
Event List

Analysis の Event List は、Tap In 管理サーバのデータベース内にログされたどのようなタイプのイベントでもフィルタすることができる、柔軟性のあるレポートです。 デフォルトではイベントは重大度（severity）と時間の降順で表示されます。



Severity（重大度）とグラフ

最初のカラムの色は、イベントの重大度を示します。その色は重大度レベルを１から５、 **赤 = 1**, **オレンジ = 2**, **黄 = 3**, **LTグリーン = 4**, そして **緑 = 5** で示します。また、同じカラムにある  グラフアイコンは、イベントに関係付けられたひとつ以上の（GA/GV フィールドの）グラフを表します。グラフを見るには、グラフアイコンをクリックしてください。



右の図に Linux の count_sevhosts モニタによって作成されたイベント計測のグラフの例を示します。

グラフを見ている間、*Rule* と *Attributes* フィルタのオプションを変更することができます。また、*Start* と *End* の日時を各設定の隣の  カレンダーアイコンをクリックすることで変更できます。*End* の日時フィールドの *End Now* ボックスがチェックされると現在の日時が設定され、このボックスに新しい日時範囲を入れるにはチェックを外します。新しい設定でグラフを見るには、*UPDATE* を選びます。グラフ参照から、*Event List* に戻るには、*All Open Events* のリンクをクリックしてください。

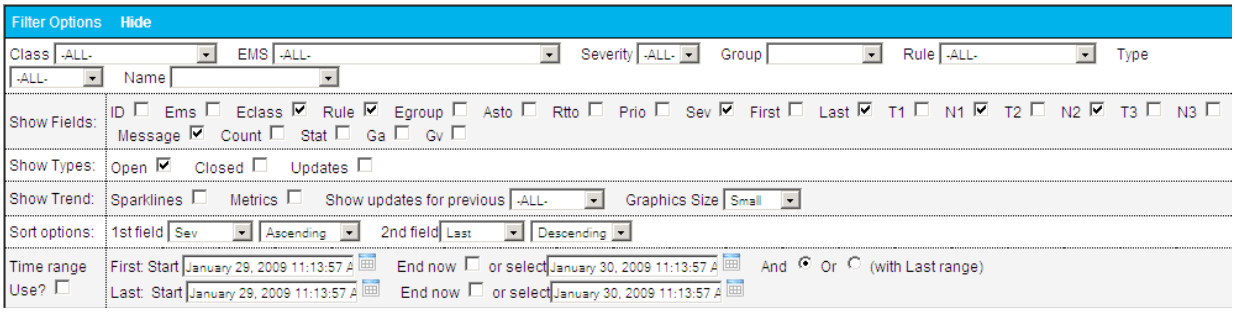
フィルターオプション

Class や *EMS* および他のオプションフィルターオプションを選ぶことで、コンポーネント詳細のレベルを変更することができます。Event List 画面から、*Show* オプションを選ぶと、このレポートでフィルターするために使用可能なフィールドを表示します。 *Hide* を選ぶとフィルタ表示を閉じます。

Open（オープン中）イベントとは、現在、Tap In 管理サーバ上でアクティブなイベントです。Closed（クローズド）イベントとは、すでにアクティブでないイベントです。クローズドイベントの開始と終了時間を調べることで、検出されたイベントがどのくらいアクティブ状態を継続したかを知ることができます。管理サーバは定期的にポーリングした監視対象システムのポーリング結果を保存します。この場合、オープン中イベントは、各ポーリングの更新を受け取ります。オープン中イベントの count フィ

ールドは毎回の更新でカウントアップされ、 GA/GV 計測基準が定義されている場合にはグラフが作成できます。*Updates* オプションを選ぶと、個々の更新を見るとこができます。イベントの更新には、時刻、重要度、メッセージテキスト、グラフ属性と各更新の値が含まれます。 下の図は、各フィルタオプションを示します。レポートフィルタの詳しい説明は、本ドキュメントの用語集を参照してください。

図: Filter Options – Status Reports: Event List Report



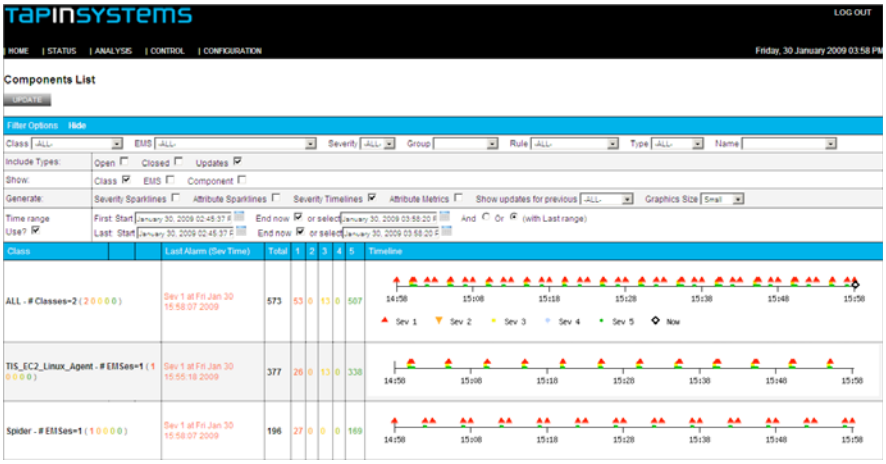
Historical Reports（履歴レポート）

履歴レポートは、イベントと指定した時間間隔での変化を調べます。

Component Severity Timelines

Component Severity Timeline (コンポーネントリスト) レポートは、各イベントの結果を時系列グラフ上のポイントとして表示する *Components View*（コンポーネントビュー）のバージョンです。イベントの重大度は、その時点での色で表表します。このレポートのデフォルトのカラムは *Class*、*Last Alarm* (Sev Time)、*Total* と *Severity* のレベル (1-5) と Timeline (時間軸)です。最上部の行は、すべてのクラスの結果を表示し、それ以下の行がクラス毎のブレークダウンです。

最上部の行のコンポーネント、この例では*Classes* の隣の数字は、その下のレベルのコンポーネント数を示します。 数値の色は下位コンポーネントの最も高いレベルの重大度の総数を示します。 たとえば、右図の表示は、**総計２クラス(Classes)**で、その内の二つ(**2**) が少なくともひとつの重大度 **1** のイベントを持ち、 ゼロ (**0**) が最上位の重大度が **2** で、 ゼロ(**0**) が最上位の重大度が **3** 、ゼロ (**0**) が最上位の重大度が **4** そして ゼロ (**0**) が最上位の重大度が **5** となります。これらの重大度フィールドはリンクでもあります。重大度のカウント数を選ぶと、その重大度にあるクラスのみが表示されます。全体一覧を表示したい場合は、*All - # Classes* を選んでください。



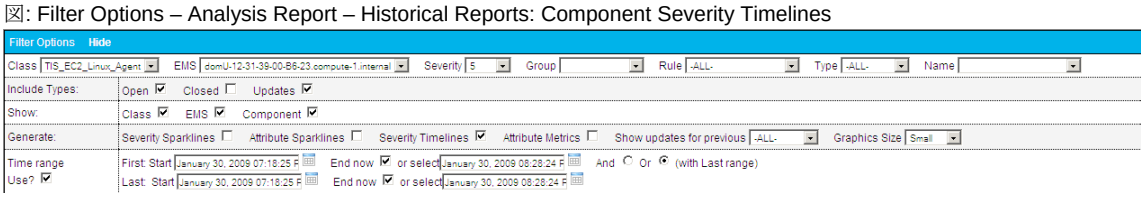
最初のカラム、**Class** フィールドは、管理対象ノードのカテゴリ (例. *All, Spider, TIS_EC2_Linux_Agent*) です。**Last Alarm** (Sev Time) フィールドは、対応するクラスで処理された最後のイベントを表示します。**Total** カラムはそのクラスのイベント数で、**Severity** カラム (**1-5**) はそのクラス内のイベントの数を示します。これらすべての重大度フィールドはリンクでもあります。重大度の数値を選択すると、対応する重要度とコンポーネントのクライテリアの *Event List* ページが開きます。

フィルターオプション

このレポートの下位レベルコンポーネントのグラフは、コンポーネントのフィルターオプションを選択することで表示することができます。そして、そのレポート内のこのリンクを選びます。また、*Updates*

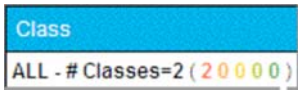
フィルターが選ばれたとき、このビューは指定された時間範囲内で発生した問題を表示します。下の図は各フィルターオプションを示します。レポートフィルタの詳しい説明は、本ドキュメントの用語集を参照してください。

図: Filter Options – Analysis Report – Historical Reports: Component Severity Timelines



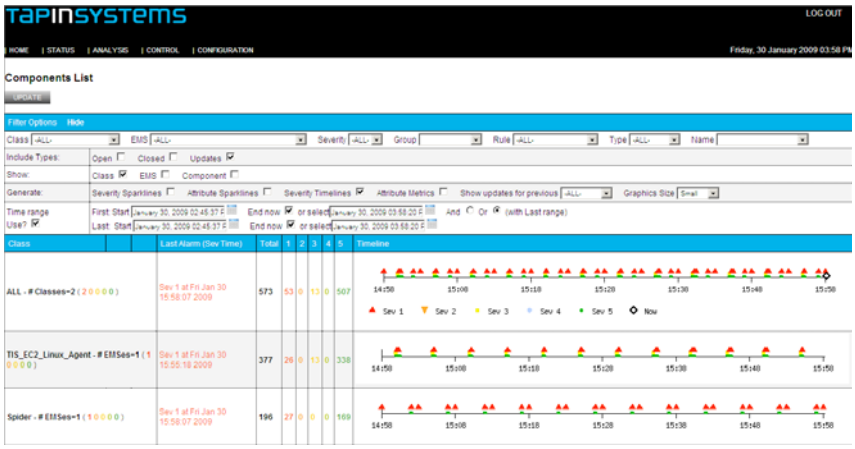
Component Severity Sparklines

Component Severity Sparklines (Components List) レポートは*Components View* の一種です。それはイベントを Tap In 管理サーバが受け取った時点の時間のポイントの連続として表示します。イベントの重大度はそのポイントの色で表現されます。このレポートは現在のアクティビティと可能性のある問題イベントをすばやく表示します。このレポートのデフォルトのカラムは *Class*、*Total* と *Severity* のレベル (1-5) と 重大度の Sparkline (スパークライン)です。最上部の行は、すべてのクラスの結果を表示し、それ以下の行がクラス毎のブレークダウンです。



最上部の行のコンポーネント、この例では*Classes* の隣の数字は、その下のレベルのコンポーネント数を示します。 数値の色は下位コンポーネントの最も高いレベルの重大度の総数を示します。 たとえば、右図の表示は、**総計２クラス(Classes)**で、その内の二つ(**2**) が少なくともひとつの重大度 **1** のイベントを持ち、 ゼロ (**0**) が最上位の重大度が **2** で、 ゼロ(**0**) が最上位の重大度が **3** 、ゼロ (**0**) が最上位の重大度が **4** そして ゼロ (**0**) が最上位の重大度が **5** となります。これらの重大度フィールドはリンクでもあります。重大度のカウント数を選ぶと、その重大度にあるクラスのみが表示されます。全体一覧を表示したい場合は、*All - # Classes* を選んでください。

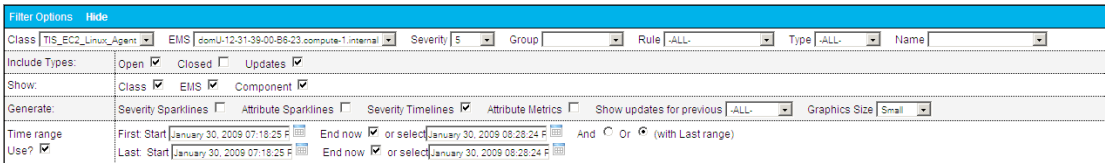
最初のカラム、**Class** フィールドは、管理対象ノードのカテゴリ (例. *All, Spider, TIS_EC2_Linux_Agent*) です。 **Last Alarm** (Sev Time) フィールドは、対応するクラスで処理された最後のイベントを表示します。 **Total** カラムはそのクラスのイベント数で、**Severity** カラム (**1-5**) はそのクラス内のイベントの数を示します。これらすべての重大度フィールドはリンクでもあります。重大度の数値を選択すると、対応する重要度とコンポーネントのクライテリアの *Event List* ページが開きます。



フィルターオプション

このレポートの下位レベルコンポーネントのグラフは、コンポーネントのフィルターオプションを選択することで表示することができます。そして、そのレポート内のこのリンクを選びます。また、*Updates* フィルタが選ばれたとき、このビューは指定された時間範囲内で発生した問題を表示します。下の図は各フィルターオプションを示します。レポートフィルタの詳しい説明は、本ドキュメントの用語集を参照してください。

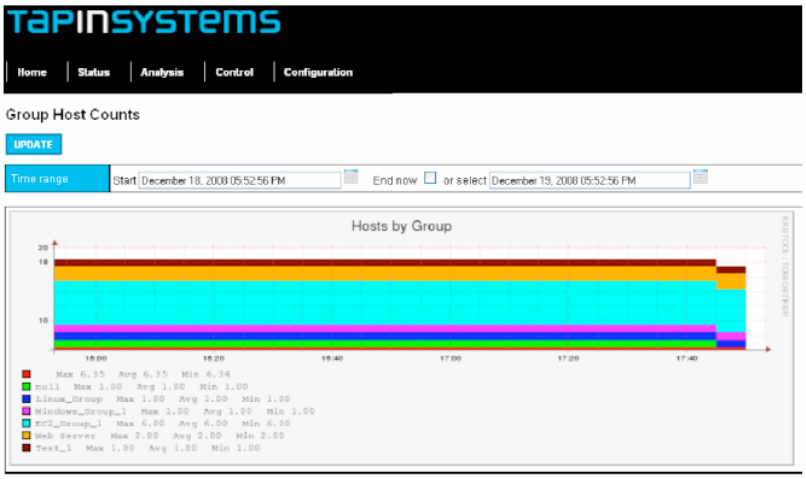
図: Filter Options – Analysis Report – Historical Reports: Component Severity Sparklines



Group Views（グループビュー）

分析履歴グラフ – グループビューはグループ毎のイベント履歴を表示します。

Group Views – ホスト数



ホスト数のグラフは、ユニークな Name 1 フィールドで定義されたホストの数の経時変化を表示します。このレポートからのデータは、各グループ毎のユニークなホストをカウントして、グループ毎のグラフ計測値を生成するスクリプトによって提供されます。ホスト数のグラフは、稼動ホストがダイナミックに開始と停止される、仮想あるいはクラウド環境で、価値のあるグラフです。レポートはこれらの計測基準をスタックグラフで表示し、どのグループの内でもホスト数変化があったことを示します。グラフ表示中、*Start* と *End* の日時を各設定の隣の  カレンダーアイコンをクリックすることで変更できます。*End* の日時フィールドの *End Now* ボックスがチェックされると現在の日時が設定され、このボックスに新しい日時範囲を入れるにはチェックを外します。新しい設定でグラフを見るには、*UPDATE* を選びます。

Group Views – 重大度毎のホスト数

このグラフ (Host Severity Counts for Group) は、ユニークな Name 1 フィールドで定義されたホストとその重大度の数の経時変化を表示します。ホストの重大度は、その時間でそのホスト上でアクティブな最も高い重大度のイベントです。このレポートからのデータは、各グループ毎のユニークなホストとその重大度をカウントして、グループ毎のグラフ計測値を生成し、その後、各グループのグラフ計測基準を生成するスクリプトによって提供されます。グラフはグループ毎に提供されます。

Group Views –重大度毎のイベント数

このグラフ(Event Counts for Group) は、イベントの数とその重大度の経時変化を表示します。このレポート内のデータはひとつのスクリプトで提供されます。そのスクリプトは、グループ毎のイベントとその重大度をカウントし、各グループのグラフ化計測基準を作成します。

セクション II

Amazon EC2 などのクラウドベンダー向けに固有のアドオンビューやロードバランサーなどのカスタムコンポーネントは、モジュールを介して追加でき、レポートの中核セットの一部でないビューです。このセクションでは、Amazon EC2 のステータスと分析レポート；STATUS – Amazon EC2 Linux : Instance Events、Instance View と Group Views、および ANALYSIS – Amazon EC2 Linux : Configuration、Billing、Number of Instances、Instance Metrics と Instance Group Metric Averages について説明します。

アドオンビューのためのステータスレポートの作成

Amazon EC2 Linux

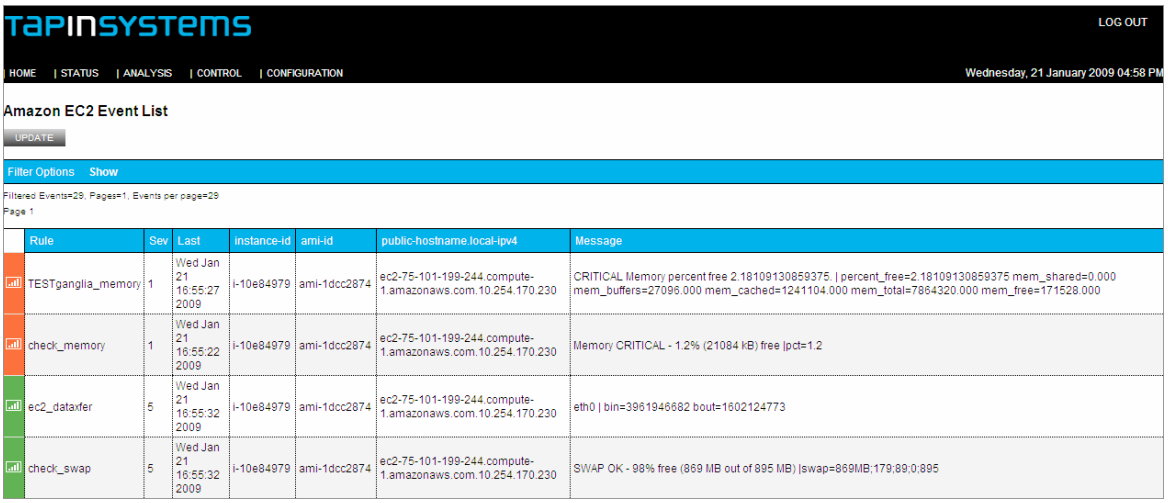
Amazon EC2 Linux のステータスレポートは EC2 管理環境の現在の状態を表示します。これらのレポートは、Tap In 管理サーバが Amazon EC2 インスタンスを管理するのに使用されている場合のみに適用できます。この場合、Tap In EC2 エージェントが EC2 イメージ上にインストールされます。エージェントとは、EC2 のメタデータをそれらのレポートで表示されるイベントにセットするスクリプトを実行するよう構成設定されます。

Amazon EC2 Linux ステータスのためのステータスレポートには、*EC2 Instance Events*、*EC2 Instances View* および *Group Views* consisting of *Hosts by Severity* と *Events by Severity* があります。

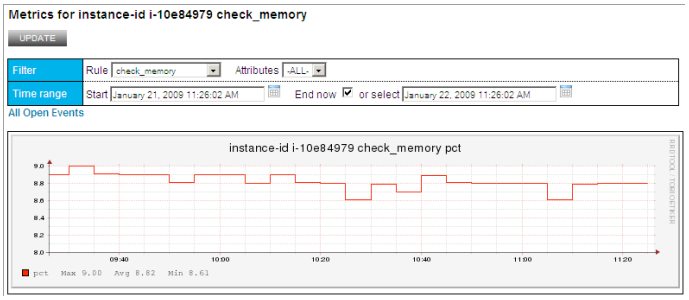
EC2 Instance Events

EC2 Instance Events ステータスレポートは、EC2 イベントのみを表示するためにフィルタを行う、Tap In EC2 エージェントによって作成されます。デフォルトでは、イベントは重要度の昇順、時間の降順で表示されます。

図: Status Report – Amazon EC2 Linux – EC2 Instance Events



重大度とグラフ



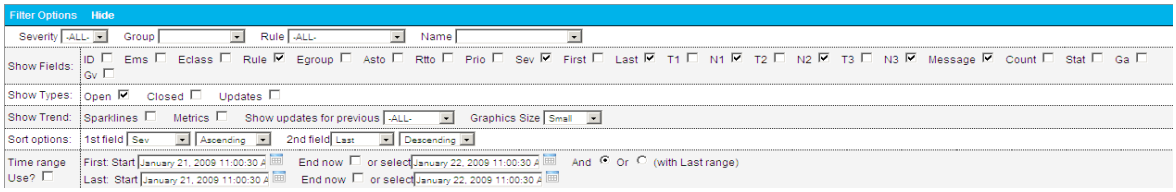
最初のカラムの色はイベントの重大度を示します。この色は 1 から 5 のレベル、つまり、**赤 = 1**、**オレンジ = 2**、**黄 = 3**、**LTグリーン = 4**、と **緑 = 5**です。また、同じカラムにあるグラフアイコンは（GA/GV フィールドの）ひとつ以上のグラフがこのイベントに関連付けられていることを表します。グラフを見るにはグラフアイコンをクリックしてください。右の図は Linux check_memory モニタによって作成された計測グラフの例です。グラフ化される複数の属性がある場合、複数のグラフが作成されます。

Start と *End* の日時を各設定の隣の  カレンダーアイコンをクリックすることで変更することができます。*End Now* ボックスがチェックされると現在の日時が設定され、このボックスに新しい日時範囲を入れるにはチェックを外します。新しい設定でグラフを見るには、*UPDATE* を選びます。グラフ参照から、*Event List* に戻るには、*All Open Events* のリンクをクリックしてください。

フィルターオプション

Severity、*Group* やその他のオプションを選ぶことで、コンポーネントの詳細レベルを変更することができます。Event List 画面から、*Show* オプションを選ぶと、このレポートでフィルターするために使用可能なフィールドを表示します。 *Hide* を選ぶとフィルタ表示を閉じます。下の図は各フィルターオプションを示します。レポートフィルタの詳しい説明は、本ドキュメントの用語集を参照してください。

図: Filter Options – EC2 Instance Events Report



EC2 Instances View

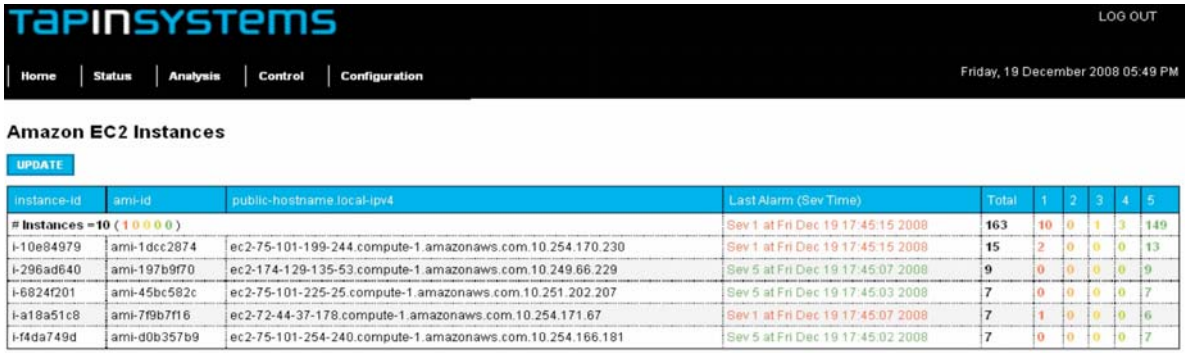
EC2 Instances View のステータスレポートは、EC2 インスタンスを表示するカスタマイズされたコンポーネントビューです。このレポートはインスタンスの状態および各インスタンスに関連付けられたイベントを表示します。

最上部の行のコンポーネント、この例では *Instances* の隣の数字は、その下のレベルのコンポーネント数を示します。 数値の色は下位コンポーネントの最も高いレベルの重大度の総数を示します。

このレポート内に表示される最初の三つのカラムは、コンポーネントの *Name 1*、 *Name 2* と *Name 3* フィールドです。 デフォルトでは、これらは EC2 のメタデータのフィールド; **N1: Instance ID** (例. *i-10e84979*)、 **N2: AMI ID** (例. *ami-1dcc2874*)、と **N3: Public Hostname and local IP address** (例. *ec2-75-101-199-244.computer-1.amazonaws.com.10.254.170.230*)です。 これらのフィールドはどのような Amazon EC2 メタデータを含むようにもカスタマイズすることができます。これらのフィールドを変更する方法については、Tap In Systems の EC2 エージェントパッケージを参照してください。

Last Alarm (Sev Time) フィールドは対応するインスタンスのために処理された最後のイベントを示します。 **Total** のカラムはインスタンスイベントの数を示し、Severity （重大度）のカラム **(1〜5)** はインスタンス内のイベント総数を示します。 これらの重大度フィールドのすべてはリンクでもあります。重大度のカウント数を選ぶと、対応する重大度とコンポーネントのクライテリアのための *Event List* ページが開きます。

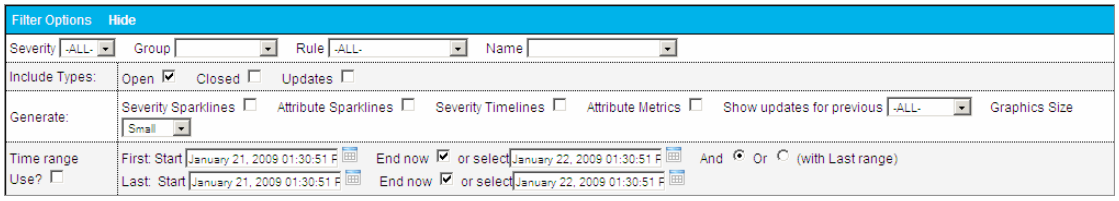
図: Status Report – Amazon EC2 Linux – EC2 Instances View



フィルターオプション

Severity、*Group* やその他のオプションを選ぶことで、コンポーネントの詳細レベルを変更することができます。Event List 画面から、*Show* オプションを選ぶと、このレポートでフィルターするために使用可能なフィールドを表示します。 *Hide* を選ぶとフィルタ表示を閉じます。下の図は各フィルターオプションを示します。レポートフィルタの詳しい説明は、本ドキュメントの用語集を参照してください。

図: Filter Options – EC2 Instances View



Group Views – 重大度毎のホスト数

Amazon EC2 Linux のグループビュー、*Hosts by Severity* と *Events by Severity* はイベント内のthe group フィールドに関連付けられています。 EC2 イベントには、その group フィールドが EC2 メタデータやユーザデータでダイナミックにセットされます。

このレポートは、EC2 インスタンスひとつのみを含んでいること以外、前述したステータスレポートの *Group Views – Hosts by Severity* と同じです。*Hosts by Severity* は各グループ毎のホスト（ユニークな Type 1/Name 1 フィールド）を表示します。最初のカラム *Group* の中のグループ名の色は、そのグループに関連付けられている最上位レベルのホスト重大度を表します。グループ名のリンクを選択すると対応するグループを表示します。

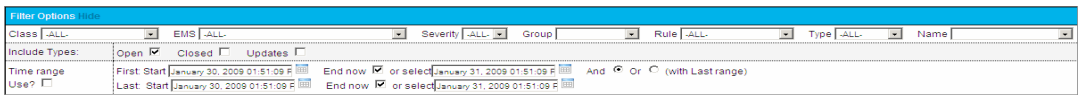
二番目のカラム *Hosts* 内のホスト名の色はそのホストの最上位レベルのイベント重大度を表します。ホスト名のひとつを選ぶと、Amazon EC2 の Event List が表示されます。次の *Host Total* カラムは、各グループ内のホスト数を表示します。最後の五つのカラムはそのグループ内の重要度毎のホスト数を表し、対応する *Event List* にリンクします。

図: Status Report – Amazon EC2 Linux – Group Views – Host by Severity

フィルターオプション

Class、*EMS* やその他のオプションを選ぶことで、コンポーネントの詳細レベルを変更することができます。このレポートでは、フィルターオプションがデフォルトで *Show* になっています。*Hide* オプションを選ぶとフィルター表示を閉じます。下の図は各フィルターオプションを示します。レポートフィルタの詳しい説明は、本ドキュメントの用語集を参照してください。

図: Filter Options – Amazon EC2 Linux - Group Views - Hosts by Severity Report



Group Views – 重大度毎のイベント数

このレポートは、グループ毎のイベント数を提供し、EC2 インスタンスひとつのみを含んでいること以外、前述したステータスレポートの*Group Views – Events by Severity* と同じです。

このレポートは、各グループのホスト（ユニークな Name 1 フィールド）を表示します。最初のカラム *Group* の中のグループ名の色は、そのグループに関連付けられている最上位レベルのホスト重大度を表します。グループ名のリンクを選択すると対応するグループを表示します。

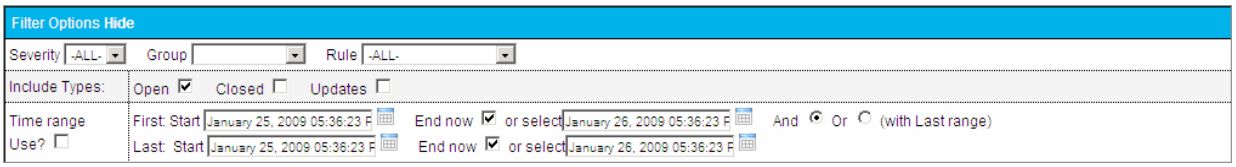
二番目のカラム *Hosts* 内のホスト名の色はそのホストの最上位レベルのイベント重大度を表します。ホスト名のひとつを選ぶと、Amazon EC2 の Event List が表示されます。次の *Host Total* カラムは、各グループ内のホスト数を表示します。最後の五つのカラムはそのグループ内の重要度毎のホスト数を表し、対応する *Event List* にリンクします。

図: Status Report – Amazon EC2 Linux – Group Views – Events by Severity

フィルターオプション

Severity、*Group* やその他のオプションを選ぶことで、コンポーネントの詳細レベルを変更することができます。このレポートでは、フィルターオプションがデフォルトで *Show* になっています。このレポートでは、フィルターオプションがデフォルトで *Show* になっています。*Hide* オプションを選ぶとフィルター表示を閉じます。下の図は各フィルターオプションを示します。レポートフィルタの詳しい説明は、本ドキュメントの用語集を参照してください。

図: Filter Options – Status Report – Events by Severity



アドオンビューのための分析レポートの作成

ANALYSIS オプションは EC2 管理環境からの履歴イベントを分析するレポートを表示します。

分析レポートは、オープン中イベントと履歴（クローズ済）イベントの両方を処理します。クローズ済イベントを要約することは、あなたの管理する環境が、時間経過の中でどのように変化してきたかの視点（ビュー）を提供します。いくつかの分析レポートは、問題についての高レベルのビューを提供するために、複数のイベントにまたがるパフォーマンス計測基準を組み合わせます。

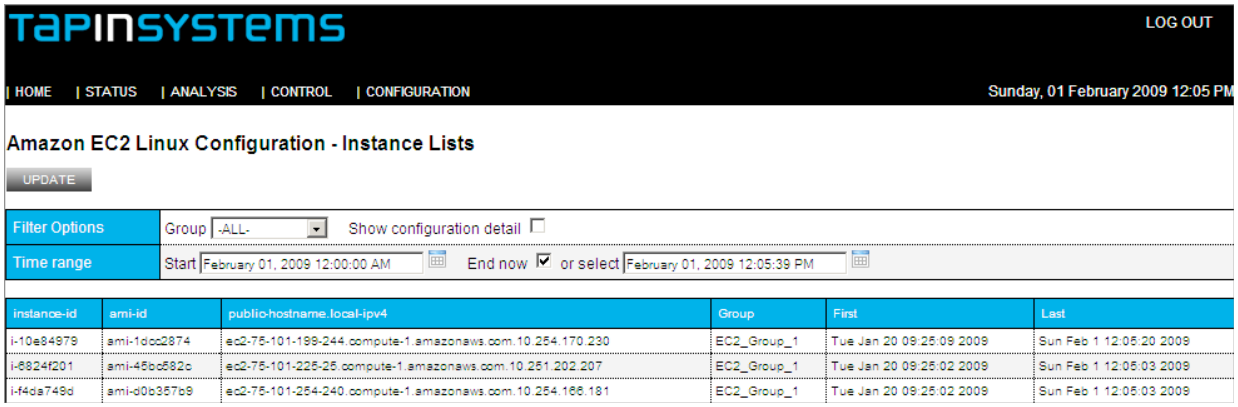
後述のレポートのそれぞれは Tap In 管理サーバ内のイベントのためのさまざまのビューを提供します。*EC2 Configuration*、*Billing*、*Number of Instances*、 *Instance Metrics* および *Instances Group Metric Averages* の *Amazon EC2 Linux* レポートについて説明します。

Amazon EC2 Linux

EC2 Configuration

クラウド環境はもともとダイナミックであるため、どの時点においても、その構成を追跡することは困難です。 *EC2 Configuration* レポートは、指定されて時点で実行していたすべてのインスタンスをインスタンス-IDで表示します。 インスタンスの *Group*、 *First* (start time) と *Last* (end time) も表示されます。

図: Status Report – Amazon EC2 Linux – EC2 Configuration

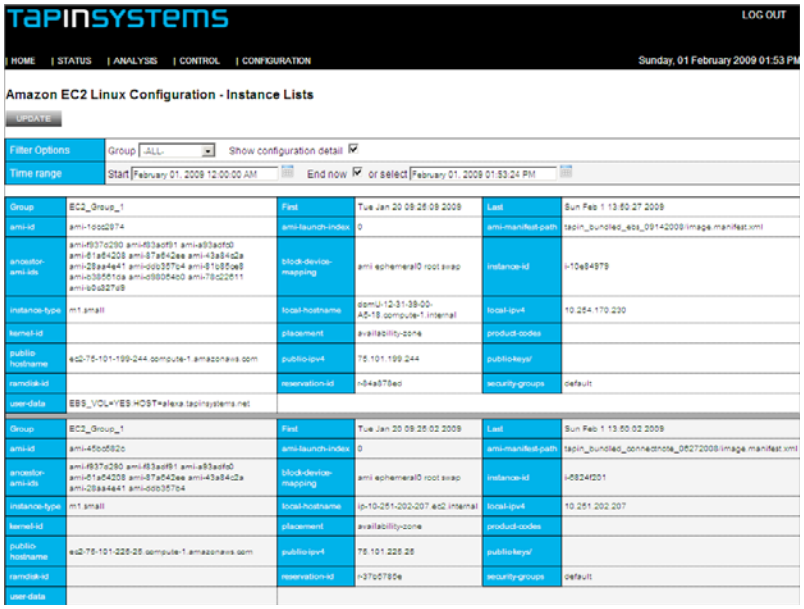


Configuration Detail（構成詳細）

EC2 Linux エージェントは、Amazon EC2 のメタデータを抽出して管理サーバに送るプラグインスクリプトを含んでいます。

導入されている場合、下記の詳細なコンフィグレーションレポートが作成できます。これは、すべてのインスタンスのためのすべての Amazon メタデータを集約します。

右側の図では、詳細内レポートを表示するため *Show Configuration Detail* オプションがチェックされています。



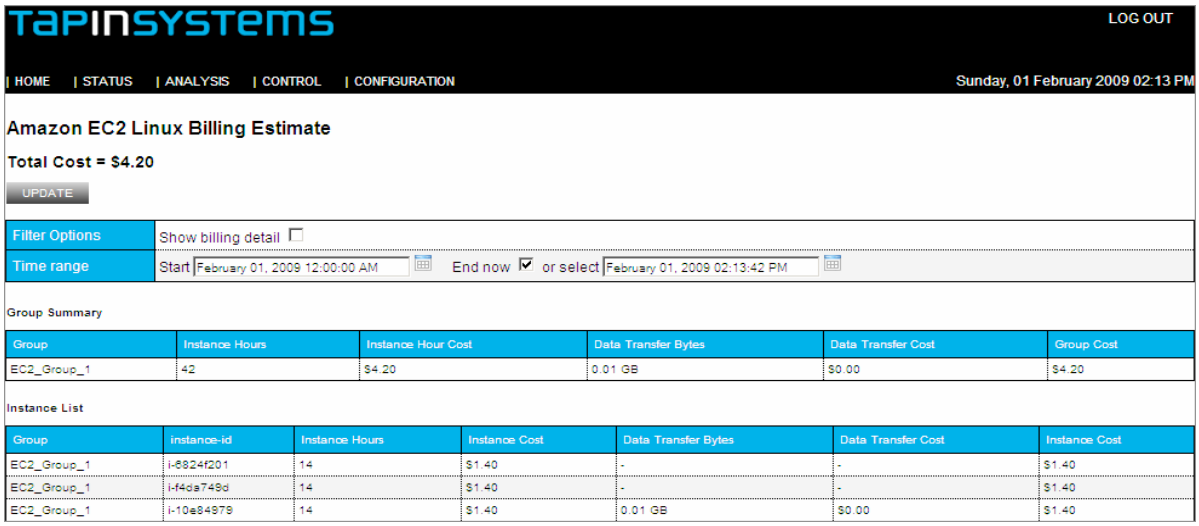
課金（Billing）

Billing Estimate レポートは Amazon EC2 の課金に関連する監視情報を収集して、Amazon の公開課金アルゴリズムに則って、課金請求金額の見積もりを作成します。このレポートの計算は、Amazon の実際の請求金額とは関係がありません。 コストはグループ毎に要約され、個別インスタンス毎に一覧になります。

Amazon EC2 課金の主要コンポーネントとこのレポートで使用する情報源は下記のものです：

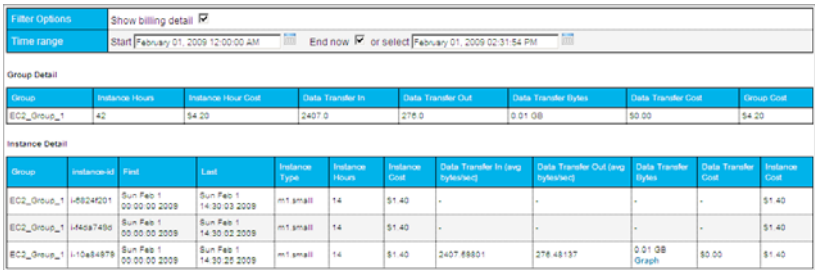
- Instance Hours Cost （インスタンス時間コスト）- インスタンスが実行している時間とインスタンスのタイプが、インスタンス時間の請求金額を決めます。
  - Tap In 管理サーバは、各インスタンス-IDからの最初と最後のイベントをトラッキングするので、レポートは各インスタンスが実行されたインスタンス時間を計算することができます。
  - A custom script from Tap In Systems 提供のカスタムスクリプトは、インスタンスのタイプなどの各インスタンスのメタデータをレポートします。この情報はインスタンス時間のレートをセットします。
- Data Transfer Cost （データ転送コスト）- Tap In は、この計測基準に必須な計測器である IO データ転送を計測するスクリプトを提供します。 Amazon は、 EC2 クラウドからの出入りするデータ転送のみを課金するので、このコストコンポーネントは、正確にコストを反映しません。しかし、適切なシステムとインスタンスにデータ転送監視スクリプトを適用することで、このコスト計測を監視システムの中にうまく入れることができます。

図: Status Report – Amazon EC2 Linux – Billing Estimat



Billing Estimate Detail（課金見積り詳細）

詳細な課金情報レポートが、*Show Billing Detail* オプションをチェックすることで表示されます。そのレポートは下記の内容などを表示します：

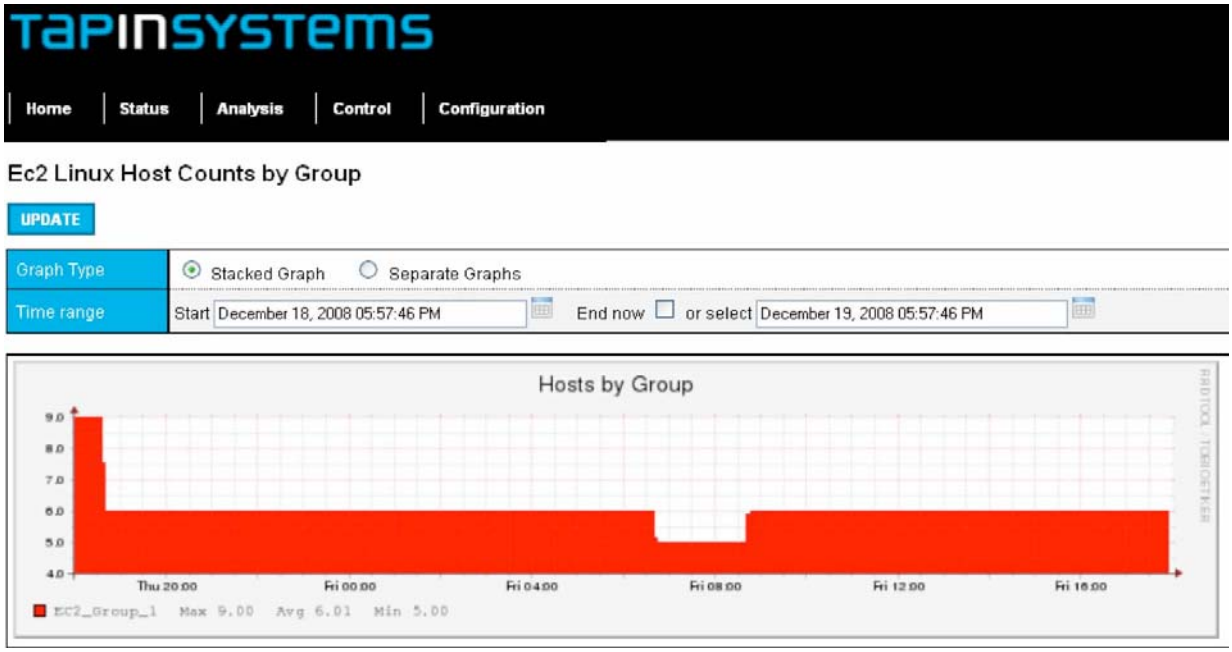


- インスタンス時間を計算するための開始と終了時間
- インスタンス時間を計算するためのインスタンスのタイプとレート
- データ転送の測定値
- インスタンスのためのデータ転送グラフ（設定されている場合）

Number of Instances（インスタンス数）

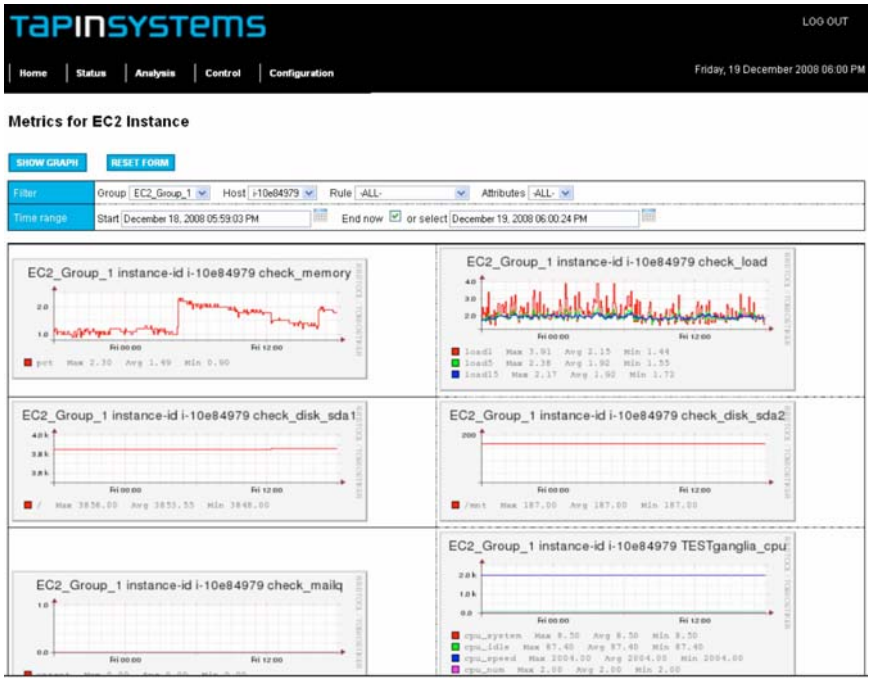
Host Counts by Group レポートは EC2 インスタンスイベントだけのグループ毎のホスト数を表示します。グループ毎のダイナミックに開始/停止されたインスタンスを表示します。

図: Status Report – Amazon EC2 Linux – Host Counts by Group



Instance Metrics（インスタンスの計測基準）

Amazon EC2 Linux – Instance Metrics レポートは、監視対象インスタンスに関連付けられたグラフ計測値を表示します。そのレポートは、ユーザに下記の選択をうながします：



- Group – インスタンスのグループ、すべての EC2 グループのリストから選択。
- Instance – 選択したグループ内のインスタンスのリストからインスタンスを選択。
- Rule – 選択したインスタンスのためのルールのリストからルールを選択。そのルールはイベントのための監視のタイプを示します。複数のグラフがひとつのイベントルールに関連付けられている可能性があります。*ALL* (デフォルト設定) が選択されると、すべてのルールとグラフが作成されます。
- Attribute – 選択されたルールに関連付けられた属性リストから選択。グラフ化された様々の属性の複数のグラフが表示されます。このオプションはひとつのグラフ属性を選択できます。 ALL を選択するとすべての属性がグラフ化されます。上記の表示例は、あるインスタンスに関連するすべての属性を表示しています。

Instance Group Metric Averages（インスタンスグループの計測平均）

EC2 Group Metrics レポートは監視対象インスタンスのグループに関連付けられたグラフ計測値を表示します。クラウドアプリケーションを監視した場合、しばしば、個別のシステムよりもシステムのグループを監視する方が重要なことがあります。このレポートはイベントグループ毎に要約したビューを提供します。

このレポートはユーザに下記の選択をうながします：

- Group – インスタンスのグループ、すべての EC2 グループのリストから選択。
- Rule – 選択したグループのためのルールのリスト。ルールはイベントの監視タイプを示します。
- Attribute – 選択されたルールに関連付けられた属性リストから選択。グラフ化された様々の属性の複数のグラフが表示されます。ひとつの属性のグラフのみに興味がある場合、単一の属性を選択できます。*ALL* (デフォルト設定) を選択するとすべての属性がひとつのコンビネーショングラフで表示されます。 他属性のスケールのために、ある属性のグラフが良く見えない場合、単一の属性を選ぶと、分かりやすくなるでしょう。

レポートのレイアウト

このレポートには下記のセクションがあります：

- イメージグラフの最初のグラフは、インスタンス数です。サマリーグラフ内のインスタンス数は変わる可能性があるので、これはインスタンスカウントをグラフで示します。
- 次は、グループ内の各インスタンスの計測基準を組み合わせた、サマリーグラフです。デフォルトでは、グループ内のすべてのインスタンスの平均が組み合わせて表示されます。オプションで、計測値の和のグラフ表示が可能です。
- 残りの四つのグラフは、グループ内の計測基準のグラフを提供します。各インスタンス上をクリックすると、そのインスタンスと計測基準の計測インスタンスレポートが開きます。

各インスタンスグラフの下の *include* ボックスをチェックしたり、チェックを外したりすることで、サマリーグラフ内に含むインスタンスを変更できます。すべてのインスタンスのチェックやアンチェックには、 Summary Graph オプション内のボタンを使用します。 選択後、refresh ボタンを選んで、新しいインスタンスでサマリーグラフを作成します。これは、ひとつのインスタンスが使用されていない場合や性能分析を歪める可能性があるデータが有る場合に便利です。

用語集

TAP IN 用語

この表は、Tap In アプリケーションに関連する用語を説明します。

Alarm （アラーム）	Tap In 管理サーバシステムが表出してQuickView や Tap In Web ビューアで表示される、実世界の状況を表す抽象的な断面情報。 アラームは、sverity、priority、text messageと ID 番号などの識別アトリビュートを持ちます。アラームは、用語「イベント」と相互に置き換えて使用できます。
Attributes: （アトリビュート）	アトリビュートは、各 Tap In 管理サーバのイベントを含む、抽象エレメントです。アトリビュートには下記が含まれます：
EMS	Element Management System.（エレメント管理システム）のホスト名。 このフィールドは、アラームのソースを示し、Tap In 管理サーバのよってそのホスト名が入れられます。(例、*ip-10-251-210-132.ec2.internal*).
CLASS	Tap In 管理サーバによって割り当てられたユーザ定義可能なクラス指定で、一般的には管理対象機器のカテゴリ（例. *All*、*QVC*、*Spide,*、*TIS_EC2_Linux_Agent*）をセットします。たとえば、Linux エージェントから来た全イベントに対し Linux_Agent クラスが指定されるでしょう。
GROUP	Tap In 管理サーバによって割り当てられたユーザ定義可能なグループで、一般的には異なるクラス間にまたがった共通フィールドが定義されます。 たとえば、特定のアプリケーションに影響を与える異なる管理対象デバイスからのイベントは、同じグループ設定を持つでしょう。
RULE	そのタイプのアラームを指定されたイベントを発生させたルール名（例、*ScheduledCheck*）。たとえば、Linux Agent クラスの空メモリ量を示すイベントは free_memory というルールを持ちます。
HRL	Hierarchical Resource List （階層リソースリスト）： T1 から T3 と N1 から N3 の一連の名前と値のペア。これらのフィールドはアラートの発生源を表します。各レベルはタイプのフィールドと値のフィールドを持ちます。各イベントに対し、できるだけ具体的にHRL は影響を及ぼしたコンポーネントを表します。たとえば、特定のカードとポートに使用するネットワークコンポーネントからイベントを受けた場合、その HRL は下記のようになるでしょう： T1 – Host N1 – 192.168.1.200 T2 – Card N2 – A T1 – Port N1 – 101
COUNT	同じクラス、ルールと HRL のイベントの繰り返し回数。繰り返しアラームが発生した場合、メディエータ（mediator）がこのカウントを増やすか、新しいアラームを作成するかを決定します。
SEVERITY	1 （最高）から５（最低）までの重大度のランク付け。アラームの色が重要度（severity）を示します。 デフォルト色は **赤 (severity 1)** 、**オレンジ (severity 2)** 、**黄色 (severity 3)** 、**LT グリーン(severity 4)** と **緑 (severity 5)** です。 レポートフィルタのオプションにもイベント重大度（*All*、*1-5,* と *<3*、 *<4*、 *<5* ）があります。
PRIORITY	*1 から 99 (最低)* までのイベントの優先度ランク付け
FIRST TIME	Tap In 管理サーバによってイベントを受け取られた最初の時間（例、*Fri Jan 16 14:25:13 2009*）.
LAST TIME	Tap In 管理サーバによってイベントを受け取られた最後の時間 (例、*Fri Jan 16 16:50:14 2009*).
EVENT ID	イベントのユニークな識別子 (例、 *...5, 4, 3, 2, 1*).
ASTO	アサイン先の ID – イベントにアサインされたコンシューマ（consumer ）名 (例. *peter*).
RTTO	振り先の ID - – イベントの振り先とされたコンシューマ（consumer ）名 (例. *peter*).
STATUS	イベントのステータス。 管理サーバがどのようにそのイベントを処理するかを示すのに使用される単一文字指標の組み合わせでも可。
MESSAGE (TEXT)	イベントに付随するテキストメッセージ (例. *CRITICAL – 10.254.34.192: rta nan, lost 100%|rta=0.000ms; 200.000;600.000;0; pl=100%;80;100;;*).
GA	レポートプログラムがグラフ化するアイテムとして翻訳するグラフのアトリビュート (例 *rta;pl*).
GV	レポートプログラムが GA と結び付けてグラフ化する値や数値として、翻訳するグラフの値 (例. *0.000;100*).
Configuration Management Instance （構成管理インスタンス）	Tap In管理サーバ上にプッシュおよび導入が可能な、使用権のあるユーザやアクティブチェックを含む、構成定義。同時にひとつのみのインスタンスが稼動中でアクティブとして導入できますが、複数のインスタンスをあらかじめ定義できます。たとえば、変更実施期間中に、あなたの管理インフラストラクチャにシステムを追加したい場合、

	新しいシステムのための監視定義を含む新しいインスタンスをあらかじめ定義できます。あなたの変更を導入後、Tap In 管理サーバ上にあらかじめ定義されたインスタンスを導入することができます。
Consumer （コンシューマ）	特別目的の管理機能のために Tap In 管理サーバのイベントを使用するプログラム。Tap In の QuickView コンソールはコンシューマプログラムです。
Event （イベント）	Tap In 管理サーバシステムが表出してQuickView や Tap In Web ビューアで表示される、実世界の状況を表す抽象的な断面情報。 アラームは、sverity、priority、text messageと ID 番号などの識別アトリビュートを持ちます。イベントは、用語「アラーム」と相互に置き換えて使用できます。
Event Bus （イベントバス）	メディエータからイベントを受け取り、コンシューマにイベントを送るのに責任を持つ、 Tap In 管理サーバシステムのコンポーネント。これは、独立した Java アプリケーションです。
Event Display （イベント画面）	Tap In 管理サーバシステムのイベントを詳しい一行目毎の形式で表示する QuickView アプリケーションのメインウィンドウです。
Filter （フィルタ）	ユーザにイベント表示をする前に選別するため使用する Structured Query Language (SQL) の仕様書あるいは、ステートメント。 SQL ステートメントは、QuickView のユーザによって定義と保存され、その後カレントのイベント画面に適用されます。
Mediator （メディエータ）	機器やシステムのステータスを監視し、Tap In 管理サーバシステムにイベントを送信するプログラム。
Open and Closed Events （オープン中および、 クローズ済イベント）	*Open（オープン中）* 状態のイベントは管理対象内での現在の問題を示し、運用担当者にとって興味があるものです。 QuickView はオープン中のイベントのみを表示します。オペレータは QuickView を使って、イベントを選んで c lose アクションを選択することで、オープン中イベントをクローズできます。Closed（クローズ済）イベントは、Tap In 管理サーバシステムのデータベースに保存されます。
Perl	システムの検査、および情報の取り出しのため、管理ツールで使用するのに最適化された、インタプリタ・プログラム言語。ほとんどの Tap In メディエータはPerl スクリプトを使って作成されています。
QuickView	Tap In 管理サーバシステムのデータを人が判読できるカラーコード化した監視イベントに変換する Tap In のデスクトップソフトウェアのアプリケーション。
Ruby	Webアプリケーション開発ために一般的に使用されるインタプリタプログラム言語。Tap In System の Web レポートは Ruby と Ruby-on-Rails で作成されています。
Ruby-on-Rails	Ruby プログラム言語を土台にした Web アプリケーションフレームワーク。Ruby-on-Rails はインターネットの Web アプリケーション開発に広く利用され、速い開発機能を提供します。Tap In System の Web アプリケーションは Ruby と Ruby-on-Rails を使って開発されています。
Severity and Attribute Sparklines （重大度と アトリビュートの スパークライン）	Sparkline（スパークライン）の用語は、Edward Tufte のよって、小さく、コンテキストの用語、数字、イメージを組み込んだ高解像度のグラフのために提案されました。Tufte は、スパークラインを、データに強く、シンプルなデザインの文字サイズのグラフィックと述べています。標準的な図表できるだけ多くのデータを示すようデザインされ、文章の流れの中に置かれるのに対し、スパークラインは簡潔、覚えやすく、それらが検討されるべき場所に置かれることを意図しています。
Severity Timelines （重大度タイムライン）	時系列グラフ上の位置としてイベントの重大度を表示するレポートのオプション。
Tap In Cloud Management Service （Tap In クラウド管理サービス）	システムとアプリケーション監視と管理を可能にする Tap In Systems が提供するサービス。そのサービスでは、Tap In 管理サーバへのアクセスと QuickView コンソールやレポートなどの Tap In アプリケーションが提供されます。
Tap In Management Server （Tap In 管理サーバ）	Elastic Compute Cloud (EC2) インスタンスとして Amazon Web Service (AWS) クラウド内で稼動する Tap In Systems のソフトウェア。 Tap In 管理サーバはシステムや他の技術からのイベントをコンシューマプログラムで使うための中立な形式のイベントストリームに変換します。
Web Application （Webアプリケーション）	Web で構成設定とレポーティングを提供する Tap In 管理サーバのコンポーネント。